令和4年度第7回
総合計画審議会

令和4年12月22日

逗子市経営企画部企画課

令和4年度第7回総合計画審議会

日時 令和4年12月22日(木)

午後6時00分～8時06分

場所 逗子市役所5階 第2会議室

出席者

出石会長、磯部副会長、佐藤成人委員、藤井委員、佐藤英夫委員、小川委員、三原委員
田宮委員、藤江委員、池谷委員、佐野委員、星山委員、中畠委員、志村委員
福井経営企画部長、福本経営企画部担当部長、黒羽経済観光課長、青柳環境都市課長
三澤まちづくり景観課長

欠席者

山口委員

傍聴者

2名

事務局

仁科経営企画部次長、四宮係長、神山主事、荻谷主事、渡邊主事補(記録)

- 1 開会
- 2 基本構想改定案及び中期実施計画案について【審議】
- 3 「逗子市総合計画について」の答申に向けて【審議】
- 4 閉会

配付資料

- ・資料38 第6回総合計画審議会での意見等に対する所管の見解
- ・資料39 まちづくり審議会の諮問及び答申
- ・資料40 都市計画審議会の諮問及び答申

- ・資料41 まちづくり審議会及び都市計画審議会での答申に対する所管の見解
- ・資料42 基本構想改定案（修正箇所のみ抜粋）
- ・資料43 中期実施計画案（修正箇所のみ抜粋）

(仁科経営企画部次長) こんばんは。企画課の仁科です。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、総合計画審議会を始めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は大変お忙しい中、逗子市総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。初めに、本会議は記録のために録音しておりますことをご了承くださいますようお願いいたします。

本日の会議は、事前に山口委員から欠席のご連絡をいただいております。現在12名の委員にご出席いただいております。総合計画審議会条例に定める定足数に達していることから、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。

本日の議題は、次第にありますように、基本構想改定案及び中期実施計画案について（審議）とございますが、1点追加させていただきまして、答申に向けた審議を、その案の審議の後に実施させていただければと思います。

本日は、逗子市総合計画審議会条例第8条に基づき、各所管の課長が出席をしております。

それでは、本日の資料の確認をお願いいたします。

事前に送付しました資料は、7点ございます。次第、それから資料38から43です。先日資料の38につきまして修正のメールをお送りさせていただいております。本日、市役所のほうにご出席の委員には、机上のほうに資料38の差し替えを配付させていただいております。オンラインの委員につきましては、メールでお送りさせていただきましたが、その審議の際には画面共有で見ていただくような形をお願いいたします。

配付漏れございませんでしょうか。

また、資料42、43につきましては、修正箇所のみ抜粋となりまして、ページ数が連番となっております。分かりにくくて申し訳ございませんが、ご了承ください。

それでは、早速ですが、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

ここからは会長に進行をお願いいたします。

お手数ですが、発言の際には挙手をいただきまして、指名をされてからご発言をいただきますようよろしくお願いいたします。

(出石会長) 皆さん、こんばんは。

それでは、ここからは会長が議長を務めてまいります。

今、説明がありましたとおり、本日はこれまで議論をしてきた基本構想の改定と、中期実施計画案の策定についての最終的な審議と、併せて、まとめましたら答申を出すということに

なりますので、議題を追加させていただいて答申に向けてというものを入れさせていただきます。

まず、次第の2になります基本構想改定案及び中期実施計画案についてに入ります。

事務局から説明をお願いします。

(仁科経営企画部次長) 資料の説明等含めましてご説明いたします。

まず、資料38をご用意ください。

市役所にいらっしゃる皆様は資料38の12月19日差し替えというものををご用意ください。

資料38は、前回の総合計画審議会でもいただきましたご意見に対する所管の見解を記したものです。対応区分をこれまでどおり○、□、▲、■の4区分としておりまして、○印は意見を反映し案を修正するといったものとなっています。初めに、資料38の差し替えをしましたその修正部分について、ご説明させていただきます。

今、画面のほう、赤い字で記しておりますけれども、こちら、資料38の1ページ目、ナンバー71、72の部分となります。もともとの資料は、○印で修正しますとなっておりますが、ここは結論から申しますと修正をしないということとしております。

元の基本構想をご覧いただきたいのですが、今日の資料でいきますと、資料42の3ページをめくっていただいたところですが、少しページがおかしいのですけれども、3ページをめくっていただいたところの、第1節、共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまちのめざすべきまちの姿です。こちらの2段落目になります。この文章ですが、2段落目、「逗子に生まれ、育ち、暮らしていく人生のステージにおいて」の部分につきまして、転入した人から見ると逗子市に生まれたネイティブの人のことを言っているように感じるというご指摘をいただきました。この点につきましては、もともとこの文章が、逗子に生まれ、育ち、暮らしていくという言葉が人生のステージという部分にかかっておりまして、様々なライフステージにある逗子に暮らす全ての人を対象としているということを意図したものでございます。田宮委員からも問題ないとおっしゃっていただいているところでもございますので、この部分は修正せずに原文のままとさせていただければと考えているところです。

この部分が直っていないままで修正しますという形になっていたので、まず修正につきましてご説明させていただきました。

続きまして、本日の資料の資料39から41、こちらはまちづくり審議会及び都市計画審議会に関連するものとなります。

資料の、今、概略をご説明するのですが、まず資料39から41の部分ですが、総合計画とま

ちづくり基本計画を一体化しているため、まちづくり条例の中で、まちづくり基本計画を策定、または変更するときは、まちづくり審議会の意見を聞くと規定されております。今回、基本構想の改定では該当する箇所はありませんでしたが、中期実施計画の策定に当たり、まちづくり基本計画に係る変更部分がありましたので、まちづくり審議会で、当該変更について審議をいたしました。また、まちづくり基本計画に都市計画マスタープランが包含されているため、都市計画審議会でも同様に審議をいたしました。

資料の39をご覧ください。

こちらはまちづくり審議会の諮問と答申となっております。12月6日に、逗子市総合計画中期実施計画の策定におけるまちづくり基本計画部分の変更についてを諮問し、審議を経まして、同日付けで答申をいただいているのが、2ページ目となっております。

続きまして、資料40のご説明をさせていただきます。

こちらは都市計画審議会の諮問と答申となっております。10月19日に、逗子市総合計画中期実施計画策定についてを諮問し、2回の審議を経まして、12月14日付けで答申をいただいております、その諮問と答申をまとめたものが資料40となっております。

これらを受けての所管の見解というものが、資料41となっております。

資料41、まちづくり審議会及び都市計画審議会での答申に対する所管の見解というものです。これは資料38と同様に、対応区分は4区分となっております。○印のものが意見を反映し、案を修正するものでございます。

続きまして、資料42の説明をさせていただきます。資料42をお手元にご用意ください。資料43も併せてご用意ください。

こちらは、資料42が基本構想、資料43が中期実施計画の修正箇所のための抜粋となっております。資料42、43は総合計画審議会でもいただいたご意見、それから、まちづくり審議会、都市計画審議会の答申でもいただいたご意見を踏まえて、総合計画の案を修正したものです。いただいたご意見を受けて修正した箇所には、資料38と41の番号をナンバー幾つという形でつけております。例えば資料42の一番上ですが、14ページと表記されているところですが、その右端にナンバー70と書いてある、これは資料38のナンバー70番に該当する、そこを反映させたものと、そういう意味となっております。

これ以外にナンバーが振られていない修正というものが資料42、43にございます。これは前回同様ですが、所管のほうから修正を行ったものです。ですので、番号が振られていないところは市の発意で今回修正したという箇所になります。

それでは、資料42から順にご説明をいたします。

まず、資料42、こちらは基本構想になりますが、前回、中篤委員からのご意見をいただいて、総論の部分の扱いをどのようにするかといったところですが、総論の中身を確認しましたところ、議決をいただく内容ではないというふうに判断をしたところでございます。ただし、基本構想案の中に、きちんと位置づけるべき内容があるということで、今回追加したのが策定の目的と計画期間と内容という1節、2節部分を追加し、それを第1章基本構想の基本方針という形にいたしました。これは現在の実施計画のほうはこういうつくりになっておりまして、こちらに合わせた形となっています。目的とそれから計画期間と内容を書いています。それともう一つ、3節の見直しの分、見直しの考え方を含めて第1章を追加しております。

次のページです。ページ番号はいろいろ飛びますけれども、次は15ページになっています。もともと将来像の中にこの基本構想策定の目的が入っておりましたので、それを1章のほうに持っていった形になっています。1章は章立てを順に送っておりますので、章、または節の番号が送られているというところとなっています。

基本構想は、大変見にくくて申し訳ないのですが、第1節の、ページ数でいけば第1節の1ページ目ではなくて裏ページ目の後ろが3ページになっておりますが、3ページのところ、ここに修正がございまして、「共」という字を、平仮名を漢字に表記を直したといった文言整理です。

続きまして、1ページめくっていただいて、画面でも赤字で示しておりますが、赤字になります。2節の5の部分、ふるさとの遺産をまもりつないでいくまちの「様々」を漢字にしたり、「いかす」という文字を漢字だったものが平仮名に直しているところといった文言の整理を行っています。

同様に次のページですが、1市民自治のまちは、「市民が」というのはダブっていて不要だということで、ここを削除しています。

それから、2の誰もが尊重され、自由で平等なまちの部分については、鍵括弧が入っていたのですが、鍵括弧を取ったり、「固有の」というのが逆にダブっているところから、削除をしたりして、文言の整理を行っているところです。

こちらが基本構想の修正となります。

続きまして、資料43のほうになります。

資料43は、まず1ページめくっていただいて、48ページが、これはナンバー73、74。これは総合戦略からの転記ですが、分かりやすいように字体を変えて枠の中に入れたというような

形にしたということと、それから、数値目標の補足というものを追加しております。

続きまして、第1節の1ページ目、これはナンバー76で、各節における数値目標の、中期実施計画の目標の補足説明を入れるような形となっています。

次のページの「地域ケアシステム推進事業」という文言と、総合戦略の数字が入っておりますが、これは記載漏れであったものを追加しました。総合戦略からとのひもづけの記載が漏れておりました。

次のページの、7ページ目の一番上の取り組み①の部分です。幾つか修正があるのですが、これは所管による文言整理で、このタイミングで修正して大変申し訳ないのですが、大きな内容の修正ではなく、より分かりやすく文言を整理したということです。

次の12ページのところですが、こちらは参考としている予算事業名の誤りを修正しております。

その次ですが、ここは基本構想です。先ほどご説明したところです。次に18ページの具体的施策③のKPI、そこに「11人」というのが「6人」になっている、そこが最新の数字に更新をしたというところです。

次のページです。この新規のところは、新規で前回追加させていただいたのですが、この部分が削除になっておりますのは、その1ページ手前の、18ページの取り組み①の説明の1ポツ目、ここの内容と全く同じ内容であったという、表現が多少違うのですけれども、実際に取り組んでいる内容は同じであったというところで、申し訳ないのですが元に戻して、この追加の4を、新規で追加した部分を削除しております。申し訳ありません。

続きまして、第2節に入ります。

2節の2ページ目は先ほどと同じです。新たに入れさせていただきます。

5ページ目ですけれども、こちらは前回ご指摘いただきまして、表現分かりにくいというところで整理いたしまして、文言を整理しております。ナンバー77と78の修正となっております。

2節につきましては、以上です。

第3節に入ります。第3節、目標の補足説明と、3ページ目、現況・課題の修正をしておりますが、こちらは少しその上の基本構想のところの下から2行目の言葉、「学び、安らぎ、遊び、憩う」という、この言葉と合わせる形で現況と課題を修正したところです。

次のナンバー87、ここは都市計画審議会の答申を受けて直した「ゾーン」というのが分かりにくいということだったので、「回廊」という言葉に直したということです。あと参考とな

る予算事業名を追加しています。

続きまして、具体的施策の②みどりの保全と緑化のところ、こちらナンバー88のまちづくり審議会の答申を受けて修正したところです。

その下、K P I の補足説明のところ、まず数値の根拠の説明を追加したということと、アダプトプログラムの説明があったのですが、こちらは用語解説のほうに回したということで修正しています。

その下に書いてある主な取り組み①の追加で、3ポツ目を追加したのはナンバー88のまちづくり審議会の指摘を受けたところによる修正になります。

次のページ、9ページになります。こちらは所管による文言整理で直しています。

次から、11ページ目からかなり経済観光課の事業につきまして、実は3節と4節にわたりまして、新たな修正部分が増えております。大変申し訳ありませんが、3節は逗子海岸の保全、第4節は観光の事業のほうになるのですけれども、改めまして、事業の書き分けの整理等を行って、このたび修正をしたので、新たな追加であるとか、新たな事業をやるためとかではなく、総合戦略と、それから各事業の整理を改めて行ったことによる整理と修正となっています。

次のページも同じような形になります。

続きまして、16ページ目、現状のところは直っておりますが、これもまだ数字が未確定だということで、確定値、そういうために2021年の数字に戻しております。

それから、その下の主な取り組みのところは所管による文言整理となっています。

次、19ページも同様の文言整理です。

第4節に入ります。

第4節、最初はこれまで同様のナンバー76の修正です。

続きまして4ページ目になります。

こちらはすみません、総合戦略とのひもづけの記載漏れと、それからナンバー79の説明を追加したということです。

次に、9ページ目、こちらはかなり大きな修正となっています。基本的には所管による文言修正で、内容がこちらのほうは分かりやすいということで修正させていただいたところです。

続きましてちょっと離れています。19ページ目です。

こちらの修正は、総合計画審議会でも一度修正した箇所ではありますが、この部分です。都市計画審議会の指摘を受けまして、2か所直しをしております。

続きまして、22ページになりますが、こちらも所管による文言修正です。

次の29ページ目以降から続きます修正は先ほどと同じです。3節の修正と同様、逗子海岸の活用の部分と、それから商工の部分は2つの節と、それから各事業と、それから総合戦略、その関係を改めまして整理をしたというところと、それから、表記等の文言の整理を行ったものです。

このタイミングで大きな修正となったので、本日は経済観光課長も同席させていただいております。

これがしばらく続きます。実際には4節が全て、同様の修正となります。

5節ですけれども、3ページ目が所管による文言の整理、6ページ目はナンバー83のご意見で修正したところです。

7ページ目は文言整理。次は第4章になるのですけれども、ここも目標につきまして補足の説明をしております。

最後が第5章部分になります。

こちらは、一旦修正した情報発信のシティプロモーションの文章の位置づけですけれども、最後ではなくて真ん中のほうがよろしいのではないかというNo.85のご指摘で、もう一度確認いたしまして位置を変更しております。

最後の部分、ナンバー86のところも文言の整理でございます。

すみません。ざっと流してご説明をさせていただきましたが、資料42、43に反映させました修正の説明とさせていただきます。

事務局からは以上です。

(出石会長) 審議に入る前に、この審議会で出てきた意見の修正よりも事務局の修正のほうで圧倒的に多いというのはどういうことですか。まず、それを説明してください。これでは審議できませんよ。委員の方どうですか、これを見て分かりますか。元から全然変わっていますよね。それをこういう形で市が中心になって直したところばかり。ごまかしているというふうに見えますよ。

まずその釈明をしてください。なぜこの段階になってこういう大幅な修正をかけてきたのか。本来ならこれは先にやっておくことでしょう。それを説明してください。

(仁科経営企画部次長) これまでも何度かご審議いただく際に、修正を提出させていただいていたのですが、今回、最終的な答申に向けてということで、改めて本当に表記の、修正後の間違いであるとか、そういった修正の確認というのを庁内照会をかけましたところ、もう一度、このタイミングとなってしまって大変申し訳ないですが、大幅な中身の変更ではなく、文言の

整理、そして節による事業の、例えば一つであった取組を分解して書いたりとかというような修正をしたほうが、このタイミングではございますが、よりよい計画になるという考え方から、大変申し訳ないのですが、修正を提出させていただいたところです。

(出石会長) それはね、市は分かりやすいでしょうね。これまでの経過、ずっと積み上げてやっていて、最後の確認でこれだけいろいろと修正している。要するに微修正と言うけれども、これは微修正と言うのですか。軌道修正はしていないかもしれないけれども、特にこれは商工関係なんていうのは、ずたずたになっているじゃないですか。だから課長がいるからここで審議しろということですか。あまりこれをそのまま審議するのは、代表でいて申し訳ないけれども、本当は整理する立場かもしれないけれども、私としては常識が外れていると思います。最初につくってきたこの中期実施計画案というのは何だったのか。適当に皆さんやってきて、取りあえずこの審議会にかければよくて、最後ここに来て、ばたばたと直しをして、それでこれで認めてくださいと言うのですか。

どこを我々は見ればいいですか。本来ならば、我々が出した意見について、先ほどの資料38にあるように白丸がついた、そこはなるほど意見を踏まえて、市は、事務局としては、各課としては新しいのに変えたとか、あるいは、やはり先ほど最初に説明があったように、意見はあるけれども、市としてはこう読める、こう考えられるので、これでこのまま残したい。それをどうかということ、我々今日やることじゃないのですか。赤字があったところ、我々今日何をすればいいですか。まずそれを教えてください。

(仁科経営企画部次長) 今回、本来ならば、今、会長がおっしゃいましたように、これまでいただいたご意見がどのように反映させたかというところを確認いただいて、答申に向けてまとめていただくというのが、事務局のほうで当初予定していた内容でございます。

しかしながら、やはり今のタイミングではあるのですが、より整理を行ったほうが最終的にはこのまま提案するよりもいい計画になるという考え方から、本当に申し訳ないのですが、ただ大きな中身の変更ではなく、整理をさせていただいたというところですので、何かをあえてごまかしのようには削除したりとか、何かを改めて追加したりとか、そういったところではないというところをご理解いただけたらと思います。

(出石会長) それは理解するというか、そうだろうとは思いますが、言いたいのは、最初につくった皆さんは何だったのですか。最後に精査したらこんなにあるのですか。それを附属機関たる総合計画審議会に最初にそういうアバウトな案を出してきたということですか。そうなりますよね、これだけ直し入れているということは。よりよくなるというのは分かるけれど

も。ということは今までより悪かったものを出してきたということでしょう。

すみません、副会長いますか。副会長の所見はどうですか。事務局、会長、副会長で、本当はこれ暫時休憩してやるべきことなのですからけれども、どのように見解を。

(磯部副会長) 私も会長のご意見に賛成で、今日私が思っていたことは、まさにこの資料38ですか、前日に私たちが出した意見に対して、こうするああするというのと、最終確認だと思っていました。

今から時間的に例えば1週間くらいの時間が取れるのであれば、今回は突然赤で修正されたことに関して、それまでに例えばメールで意見を出すとか、そういったことはできればよいのではないかと思いますというのが私の考えです。

(出石会長) すみません、うまく仲裁を入れていただいたのですが、要は、今日は基本的には前回まで議論したことを確認するのですけれども、赤で修正したようなところは、今後、個別に委員がこれでいいか確認をするということでもいいですか。

ほかの委員の方、どうでしょうか。取りあえず今副会長から意見をもらって、今回、大量の微修正の扱いについて、ご意見ある方いらっしゃいますか。

中畠委員、どうぞ。

(中畠委員) すみません、会長、副会長が言われたことのほかに、少し確認したいというか、気になる点がございます。それはまちづくり審議会と都市計画審議会での答申が反映されているという部分ですけれども、通常ですと、まちづくり審議会や都市計画審議会では何か案を出していただいて反映させたものを、総計審のほうに出していただくというような順番なのかなと思ったのですけれども、結果として、私が非常に気になっていたまちづくり部分で、意見を出したけれども反映されなかったという部分が、変更があったりして、非常によくなったなと思うのですけれども。それについてももう少し説明をしていただいて、確認をしていったほうがよろしいのかなということを思います。

(出石会長) その点、説明はいただこうと思うのですが、そこは少し私のほうからこれまでの、大分昔からの整理の確認的に申し上げると、都市計画審議会とかまちづくり審議会も実は議論をして、多分恐らくたくさん意見が出た中で、審議会として最終的にはここを直すという案が出ているのです。我々が総計審として個別に出してきた意見を今回、○、□はなっているものと、同じ表に見えるのですけれども、まち審と都市計画審議会のほうは、既に合議されて出てきたものなのです。ですから、それを昔からこれは議論があつて、総計審と個別の審議会の上下関係はどうなのだという議論があるけれども、さらにもっと言うと、もともとまちづ

くり基本計画や都市マスが溶け込んでいる総合計画なので、ある意味まち審と都計審については、我々は配慮しなきゃいけないのです。

それで、繰り返しになるけれども、まち審や都計審の委員が個々に出してきた意見については○、□とかついているのではなくて、そもそも両方の審議会がそれをもう精査してきている。だから、それをこの総合計画としては、それを受け止めざるを得なくて、むしろあるとしたら、今説明があると思いますが、一方でこちらからは意見が出てきたものを反映するのはいいのだけれども。では、全体に述べられるわけですから、総合計画審議会側でもやはり意見を、そこについての部分との関係ということになると思います。

中畠委員、ご理解いただけますか。要は、同じ土俵ではないのです。都計審とまち審はそもそももう意見集約されたものなのです、市も入って。

(中畠委員) はい、了解しました。

(出石会長) なので、一応コメントを求めますか。一応説明は今のでよろしいですか。

(仁科経営企画部次長) 会長、おっしゃるとおりですが、先ほど中畠委員が、ご自身が言っても反映されなかった部分があるというところがナンバー幾つかというのが、もしお分かりになれば。以前の資料29で、もしお分かりになれば。

(中畠委員) 3節の5ページですかね。アダプトプログラムというものを強調されたKPIがつくられていたのですけれども、そのほかのまちなかに緑を増やしたりする取り組みも大切なのではないでしょうかといったような意見を申し上げていたかと思うのですけれども。今回、ナンバー88ということで、まちづくり審議会からの意見が反映されたものが入ったので、割と比較的私が意見として申し上げたもののイメージに近いものが入ったのかなという印象を受けたというところでございます。

(仁科経営企画部次長) この点は何か説明があったほうがよろしいのでしょうか。

(中畠委員) 特には大丈夫です。

(仁科経営企画部次長) 分かりました。

(中畠委員) 特に、まち審のご意見でこういうふうになったからということで、よくなったなというふうに理解しましたし、そのやり方についても会長からご説明いただいたことで納得をいたしました。

(仁科経営企画部次長) ありがとうございます。

(出石会長) 藤江委員、どうぞ。

(藤江委員) 資料の、先ほどの資料38に載っているものですが、すごく大きく話が

曲がったということですがけれども。最近、私が担当した分野ですがけれども……。

(出石会長) すみません、藤江委員、ちょっと待ってください。先にそもそも論の結論を出しておいて、中身に入りたいと思いますので、中身の議論にまだ入っていないのです。今、中島委員のほうはやはり全体にかかるところだったので、整理をしました。まち審と都計審との関係で。もう一つ、私から提起して、副会長からご助言をいただいた、つまりこの総計審で出てきた意見とは別に、様々な部分が、文言等の整理ということですが、書き直されている部分について、それはそのとおりでいいですとするのか、それともそこについて、ある程度確認を取るのかということで、ご意見ありましたら。

(藤江委員) ちょっと私からそれについて質問があるのです。

(出石会長) はい、どうぞ。

(藤江委員) 資料38で、それまで▲ではない状態だったのが、いろいろ具体的にやらないといけないということで、そういうふうにならなかつたのが何もなくなって、修正しますというだけのものが、例えば4ページに出てきます。

それから、5ページでいくと、「分かりやすくなるように工夫します」それはさんざんこれまでやってきた話なのに、なぜこれからこういうふうな形に後ずさりするのだろうかというのが、非常に何のための議論だというふうに思います。

基本的に、前回までの話が何か変わったのですよね。

(出石会長) ごめんなさいね。だから、その議論はもう少し待ってくださいと言っているのです。

(藤江委員) そうですか。はい、分かりました。

(出石会長) もう一回言いますよ。その今の、もちろん大事な議論です。つまりこれまで我々が意見を申し上げてきたことに対して、市の見解や所管の見解が示された。その示し方の問題も含めて、直す直さない、あるいは単に修正しますと書いた部分等について、どこをどう修正したのという議論があるから、それはやりましょう。本筋は今日やるべきことだけれども、それをやる以前の、むしろ大問題ではないかと私は思っているのだけれども。要は、内容は変わらないと言いつつも、かなりの部分が赤字修正されている。それについて、もう一回言いますと、磯部副会長からは、それでも今日そこで止めるわけにもいかないという趣旨もあると思いますが、時間を見て、内容が変わらない前提だということのももちろん、審議をした上で、この表現について意見をまとめる。述べる方がいれば受け止めてもらうみたいなことだと思います。

副会長、どうぞ。

(磯部副会長) 今ほどの意見に申し添えますと、事務局のほうからは全体に関係がないというような説明ではありますけれども、全体に関係があるのかなのかというのを決めるのは、審議会の仕事であって、事務局がその見解を述べたところで、そうですかというわけには審議会としてはいかないというふうに考えます。

(出石会長) そうですね、それはおっしゃるとおりだと思います。

ほかの委員からいかがでしょうか。

発言ないと同調でいいですか。それとも、あまり荒立てるなという考え方もあるかもしれませんが。

では、今そういう意見というか提案がありました、市側としてはどうですか。受け止められますか。

(仁科経営企画部次長) 大変申し訳ございませんでした。担当の所管のほうからこのような修正をしたいと、今さらのタイミングで言われたときに、事務局としては、正直言ってこれはやめてほしいとは言い切れなかったと。やはり直したほうがより最終的にはいい計画になるであろうというように考えたために、本来ならばこのタイミングで出すべきではないものであったものですが、それを握りつぶすというか、修正をしないまま計画を通すのは、やはりよくないだろうということで、委員の皆様には大変申し訳ないのですが、このタイミングでも出させていただいたというところでございます。それが事務局の判断ミスだということであれば、大変申し訳ないのですが、今回、基本構想部分につきましては、年明けからパブリックコメントを予定しておりますので、その部分はスケジュール的には動かし難いところがございますので、その部分は今回、文言整理を幾つか追加をさせていただきましたが、基本構想のほうは答申としてまとめていただく形をお願いできればと思います。

実施計画部分については、本来ならば一緒に答申いただきたいところですが、今、このまま審議会としてご判断いただくことができないということであれば、しばらくお時間を置いて、ご回答いただくような形というのも考えられるかとは思いますが、できましたら一緒にご答申いただけるのが、本当はありがたいと思っております。

(出石会長) はい。

(福井経営企画部長) すみません、事務局を代表しまして、まず、この時期に修正を出したということにつきましては、やはり手戻りが生じており、皆様のご審議が行われた後、また出すということになっていきますので、本当にお手数をおかけするという中で大変申し訳ござい

ませんでした。

また、今、ご説明ありましたように、実施計画については、もう少し時期を見られるということがありますので、もし、ご理解をいただけるようでしたら、副会長のほうのご意見の中で、少し時間を見て、もう一度見ていただければ幸いです。すみません、よろしく願いいたします。

(出石会長) 基本構想が、パブリックコメントをやる関係で時間がないという、この理屈はともあれ、基本構想の修正は理解できるのです。端的に構成を変えただけだから。それを今変えたのかもしれないけれども、それは見ても基本構想、ボリュームもあるから分かるけれども、要は実施計画のほうは、根本的に表現を変えているじゃないですか、それもかなり。主な取り組みが追加したり、消えたり、様々に変更になっていますよね。

それをずっとここでつらつらされてもしようがないけれども。言いたいのは、最初出した案は何だったのですか。十分詰めたのではないのですか。総合計画審議会に出してきたのですよ。これ、同じことを議会でやったら大変なことになるでしょう。もし同じことが起きたら、議案の出し直しでしょう。そのぐらい大きな問題だと私は思うのですが。それを事務局が差し戻せなんて言っているつもりは毛頭なくて、何でそうなったのですか。見方によっては総合計画を各セクションが甘く見ているということでしょう。形上つくっておけばいいのだ。経営企画部から求められているから出している。ところがいざこれが議会上がっていく段になってきたときに、ここを直さないと、ようやく部長らの目に留まったのではないですか。どうですか。もう結局怒っているのですよ。

今日も午前中、小田原市の総計審をやっていましたけれども、これは初めてですね。ここまでの総合計画にかかわらず、正直驚いているのですが。なので、委員として言うべき立場かもしれないです。僕がまとめないといけないけれども。

特に発言がなければ、今、事務局からもあったように、基本構想については今日まず確定をさせる、答申に向けて整理をすると。実施計画のほうもできれば今、藤江委員が出された意見を、大事な意見ですから、それらあたりをつなげて、皆様から意見をいただいたものについての対応を再度検証して、答申はしましょう。それで、ただし字句の修正等については、副会長の言われた、もし見た結果、実は結構本筋変わっていらまらずいですよね。だけれども、そこは進めないとしようがないので。どうでしょうか。まずは網かけしたところ、審議会の意見を踏まえて直したところ、あるいは直していないところ、資料38を踏まえてです。

先ほど藤江委員のところを、藤江委員、もう一度発言してもらえますか。

(藤江委員) はい、分かりました。

私が意見していたページで話をしたほうがいいと思っているのですけれども、5ページのところです。資料38の5ページ、このところの実施計画第5章はどうのと書いてありまして、それに対して具体的に何かをやるよということを今まで検討されていた事項です。そのところは今までは▲ではなくて、○というのですか、要するに具体的にこういうことをやりましょうということが書いてあったわけですが、それが工夫しますと、それで答えをくくっていた。工夫しているのだろうなと思ったら、全然工夫していない、書いていない。ここは何か分かりますか。5ページですけれども、▲で書いてあったけれども、「用語解説に、必要に応じて例示を加えるなど、分かりやすくなるよう工夫します」となっているわけです。そういうことが入っている。

それは、あれも話題になりましたね、市役所のエレベーターには広告のパネルがないねなんて話題が出てきたぐらいまで議論したわけです。それをどうして削っちゃったのかというのが私には分からないし、ここを削った方々のご専門の方ではないなど。逗子で今ピンチなところがどこなのかということがあまりご理解いただいていないなというふうに思われます。

以上です。

(出石会長) ナンバー84ということですかね。

(仁科経営企画部次長) ナンバー84についておっしゃっていると思うのですが。よろしいですか。

(藤江委員) 84です。

(仁科経営企画部次長) こちらは、用語解説として、冊子でいきますと巻末のほうにまとめて表記するような形を予定しています。ただ最初にお出ししました案は、その部分をあえて本文中に表記をして分かりやすいようにくっつけて表示しましたと申し上げました。ですので、今後本文中には用語の解説は載らないのですが、巻末に持っていく際に、そのときに必要に応じて例示を加えるとういうことなどしたいと。用語の解説はもちろんやるのですけれども、そこにどこまで例示を加えられるかというのは、工夫しますという、そういうことでお答えしていますので、▲ではない、つまり反映が困難なためというのではないです。どちらかという、○だと思っておりますが、文章の中ではなく、用語解説の中に加える予定ですので、対応区分の▲というのが間違いです。申し訳ありません。対応はします。工夫を用語解説の中で例示で示していくと。どこまで例示するかというのは用語解説の全体のバランスの中で工夫をしていくという趣旨でやってまいります。

(出石会長) 要するに本文には触れていないから、ここでは見えないけれどもきちんと用語解説には対応します。それは端的に言えば、お任せいただきたいということですね。

(仁科経営企画部次長) はい、そうです。

(出石会長) いかがでしょうか、藤江委員。

(藤江委員) 出てこないと分からないですけども、そういうことであれば、正しい方向なのかな。それはすごく大事なことなのです。

(出石会長) そこはそういう形で。

ほか、いかがでしょうか。この資料38に対する対応等です。

三原委員、どうぞ。

(三原委員) この文言はどうかというよりも、私は3ページの80の部分です。

私の申し上げたことがちょっと誤解か、理解不足か。ここの所管の見解として、真ん中辺で「住民自治協議会が加入することは逗子市防犯協会会則上難しいと聞いています」。逗子の防犯協会に住民自治協議会が加入したいということを私は一言も言っていないのです。警察で隔月に防犯の会議を、警察と防犯協会と、あと少年指導員だとか、そういうところがまとまって防犯の会議をやっている。その会議に我々を参加させてもらいたいと。これは防犯協会の会長にも副会長にも申し上げているのですが、組織が違うということで一蹴されている。だから、防犯協会に住民自治協議会を入れてほしいなんて一言も言っていないです。これはそういうような書き方。

それと、その下に、「逗子警察署地域防犯連絡所連絡協議会は、逗子警察署が設置している組織であり、ここの会議に入ることは可能だ」というようなことが書いてあるけれども、現実問題、私はここの役員をやっています。役員というのは何かというと、各ブロック、小坪ブロックだとか、久木ブロックだとか、そういうブロックがあってブロック長がこの役員になっている。私は小坪ブロックのブロック長をやっています。

ところが、ここはまるきり形骸化して何にも活動していません。総会を年に1回やるだけです。だからその実態は行政が分かっていなくて、こういうところと会議をやっているから、防犯のほうをやっていますよという姿勢が違うよと私は申し上げているのです。そのところの理解がちょっと足りないので、防災安全課は経営企画部ですよ。

(福井経営企画部長) はい。

(三原委員) ですから、今の私の申し上げている、隔月に行っている会議に住民自治協議会が参加したほうがいいのです、絶対に。ところがかたくなに防犯協会は、組織が違うから入れ

ないみたいな話。だってあなた市民のためにやっているんでしょうと言っているけれども、それは聞いてもらえないということは、私は前にもここで説明しているのだけれども、担当部署のその辺の理解不足。だからこういう文章ではないのです。それを少しご説明していただいて、もう一度きちんとまたやっていただきたい。

(福井経営企画部長) すみません。理解が不足して申し訳ございませんでした。

隔月、2月に1回やっている会議ということで、正式な何か名称というのは。

(三原委員) 帰ればありますので、正式な名称は。

(福井経営企画部長) では、またそこは後日いただいた上で。

(三原委員) 何とか部長会とか何とかというのですけれども、

(福井経営企画部長) 正式な名称を……。

(三原委員) それはご連絡申し上げます。

(福井経営企画部長) 正式な名称で理解させていただいた上で、対応のほうを、またさせていただければと思いますので、ちょっと思い違いの部分がありまして申し訳ありませんでした。

(三原委員) ただ、事実として、そのほうが絶対に市民のためになるわけです。だからそれは何か組織が違うの一点張りで、形だけのことを言っているのはけしからぬと私は思っているのです、行政のことよりも、防犯協会の問題を指摘しています。

(福井経営企画部長) はい。

(出石会長) そういうことでなんですが、そのとき私も、今日の資料にも載っていますが、住民自治協議会条例が調整もされて、これが条例で議決されて、市の条例になれば、それはやはり位置づけが変わると思うのです、認知されたものになる。

(三原委員) 前にも会長がおっしゃったからね。

(出石会長) そこはそれも、おのおのの組織も市もそうだし、この協議会も受け止めないといけないところですよ。そこはそういうふうに部長のほうからもしっかり対応して。

ほかいかがでしょうか。

出された意見に対して、もちろん全てが反映されるわけではないわけですが、回答と、所管の見解、それから実際の修正された部分含めて、これはこれでよろしいでしょうか。

(「佐藤英夫委員」の声あり)

(出石会長) 佐藤英夫委員ですね、はい、お願いします。

(佐藤英夫委員) すみません、タイミングがよく分からないのですが、資料43のところの質問というのはいつやればいいのでしょうか。

(出石会長) 今やっています。

(佐藤英夫委員) では1つ目ですが、要するに新規と書いてあるところは、さあっと説明がされているのですが、何でこれが入っているかが説明がなかったと思うのですけれども。例えば、12と書いてあるページがありますよね。この資料のページです。資料43。

(出石会長) 高齢者の運動の機会の促進と啓発のところ。

(佐藤英夫委員) そうです。

それが12というページの一番下のところに新規というので、高齢者の運動の機会の促進と啓発というのが入っていますよね。これはなぜ入っているのかというのが質問です。

(出石会長) これは、もともとそれで出てきているものなので、今回、新規と入れたのではなくて、もともとこの中期の実施計画に、それこそ今回の修正が入る前のときから新規に加えますよということで、出されていたものです。それで選んだけれども、その運動・スポーツ習慣化促進事業という名称を一般介護予防事業に変えますよというのが、今日事務的にやってきたということで、これはもともと説明は今日はする部分ではないです。

(佐藤英夫委員) 非常にややこしいですね。案件というふうに見えますけれども。

(出石会長) 今日追加しているように見えますよね。

(仁科経営企画部次長) 補足させていただきますと、第3回目の審議会の際に、10月6日です、このときにお出しした資料から、この新規というのは入ってしまっていて、もともと第2回の審議会で磯部副会長のほうからお話がありました何を削除したのか、何が追加されたのか全然分からないというご指摘を受けまして、調書にこれまでの実施計画から全部削除してしまったものとか、そういったものの説明と、新たに前期の実施計画にはなかったけれども、中期の実施計画になって新たに追加したもの、それについては新規であるとか、一部新規という表記を加えて、分かりやすく表記したという経過がございます。ですので、今回ではなくて、10月から資料のほうにはこの表記がございます。

(佐藤英夫委員) 分かりました。スポーツ習慣化促進事業という言葉が消したというのは今回の修正ですか。

(仁科経営企画部次長) この事業名が間違っていたということです。

(佐藤英夫委員) ああ、そういうことですね。

(仁科経営企画部次長) これまでは、今は運動・スポーツ習慣化促進事業という予算事業の中でやっています。前回【参考】予算事業名という形で参考にいたしました、予算事業名というのは変えられるのです。来年度からは一般介護予防事業の中でこの事業をやろうといこと

で予算事業を移すだけでございますが、その修正ができていなかったのも、今回、改めて修正させていただきました。

(佐藤英夫委員) では、次、19ページですけれども、この資料のページで19ページ、上に新規とありますが。

(仁科経営企画部次長) これは先ほどご説明したところですが、この部分を前回の審議会でここを新たに追加しますとご説明したところですが、ところが、申し訳ないのですが、所管のほうでよくよく精査したところ、前のページの取り組み①の説明の1つ目の部分と表現は違うのですけれども全く同じ内容の取組であるというところで、元に戻したというところで、削除させていただきました。申し訳ありませんでした。

(佐藤英夫委員) 分かりました。承知しました。ありがとうございます。

(出石会長) はい、よろしいですか。

それではほかの委員からありますでしょうか。

では、特に、修正、意見等もないということではよろしいでしょうか。

それでは、先ほどの微修正と言われている部分については、この後、最後にもう一度、どういうふうに取り扱うのか、今後、どう取り扱うかは整理するとして、一旦、これまでこの総合計画審議会で基本構想、それから中期実施計画を議論してきた最終として、資料38と41に対応させた修正について、これを案として認めるというか、案になるということではよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(出石会長)

では、そのようにさせていただきます。

それでは、議題を追加いたしました、次第3として、答申に向けてということで、今、最終的に微修正の部分どう扱うかは別として、基本構想と中期実施計画、これについては市長から総合計画についての諮問を受けています。その諮問に対しての答申を出す必要があります。答申の出し方もいろいろとあると思うのですが、前例もあるでしょうから、まず、これまでの、前のときですか、前期実施計画ないし基本構想、最初の段階の答申はどのように出されたかをまず確認させていただけますか。

(仁科経営企画部次長) それでは、前回の答申につきましては、お手元に総合計画お持ちでしたら、冊子の225ページになるのですが、総合計画についてのうち、次期総合計画(案)について(答申)となっています。この何々のうちというのは、一つの諮問につきまして答申を

分けて出していただいた関係で、こういう言い方にしておりますが、その際、「慎重に審議した結果、別紙のようにとりまとめたので、答申します」という文言でこの答申書の後ろに修正した後のものを溶け込ませた状態で、その総合計画の案をつけて、それを答申というような形にさせていただきました。

(出石会長) ということで、これ、様々な議論があるのです。これまでこのやり方をしてきているということは、実は、我々はこの方針を踏襲すると、最終的にきれいになった基本構想と、中期実施計画、これが答申ですと、それを渡すことになるのですね。ちなみに、223ページ、冊子です。総合計画の冊子がありましたら、223ページを見てもらうと、これは総合計画策定条例についての諮問を受けたときなのですが、1段落目を見てまいりますと、2行目です「『総合計画策定条例の考え方』に関し、妥当である旨、答申します」と。つまり、この考え方は何かというと、市がつくってきたものについてこれでいいよ。あるいはもしこれが修正になったとしたらについて、こうあるべき、あああるべきと答申をするというやり方もあるのです。

私に関わっている他都市の総合計画でもやはり両方あります。このあたりどうでしょうか。どういう答申の形がいいのか、ご意見があったらお願いしたいと思います。

前例踏襲でよろしいですか。特にそこはいいですか。

(三原委員) いいと思います。

(出石会長) ありがとうございます。

そうすると、225ページ、今回の諮問書は、基本構想及び中期実施計画について別紙のとおり取りまとめたので、答申しますという感じですかね。

そこでなんですけれども、前の答申を見てもらうと、中にはいわゆる苦言的なものがついているものがあるのです。先ほどの223ページもそうです。あるいは224ページも後段は要請がついているのです。このような形で、ただ単に答申するだけではなくて、特記する事項があれば書けます。何かこれまでの審議を踏まえて、ある意味注文を付けておいたほうがいいのではないとか、こういうふうに取り組んでほしいとか、何かありましたら。

内容を答申するだけでよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(出石会長) 個人的には、今日のこれについては触れておきたいぐらいな気はあるのですが、それはみっともないなと思うので、今でも議了していないので、特に中身としてはしっかりとした考えの下に基本構想や実施計画が諮問され、それについて修正を重ねた結果がまとまった

ということなので、これをもって答申とするということで、よろしいですか。

ではそのようにいたします。

では、2と3について、もう一回まとめますけれども、今回、これまでの延べ6回というか、この案件何回やったのですか。全部で、1回目から全部ですか。

(仁科経営企画部次長) いや、1回目から全部です。

(出石会長) 今年度この審議会で議論をしてきた基本構想の改定と、それから中期実施計画の策定について、議論した結果が最終的にまとまります。そして、そのまとまったものをもって、市長に答申をする、このような形になります。

ここまで、皆さんよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(出石会長) それでは戻りまして、市の方から赤字修正をされている部分についてですが、磯部副会長から、若干の時間を取って確認をしましょうということですが、その確認をした結果をまたどうするかということもあるのと、それから、手間がかかるかもしれないけれども、ご質問があったように、どうしてここ変わったという理由が分からないですよね、説明を受けないと。

だから、少し大変かもしれないけれども、変えたところについて、何で変えたか説明文をつくってください。新旧対象でもいいです。前がこうで、先ほど一番分かりやすかったのは事業名が変わったというのは分かりやすいです。何とかという事業名が、こうなった。単純にその理由は予算事業名が変わったでいいわけです。一方で、表現が基本構想の文章を使ったというのもありました。そういうのもあるけれども、一方で、何か付け加えたようなものとかもあつたかに思ったけれども。仁科さんの説明のとおり、本当に微修正だということであれば、多分それ自体はそんなにつくるのは大変じゃないですよね。少し意地悪な質問だけれども、そこで大きく変わっていたら、それは問題ですから、説明がつかないような修正をしていたら、それはまずいです。

それをつくっていただいて、それをつくっていただいたものを至急に委員に送ってもらって、委員から出てきたものについて、それがもし出なければいいですし、了解という意味です、出なければもちろんいいけれども、もし、いやここはおかしいという意見が出たときに、それはそのままではいけないのです、当たり前だけれども。この審議会で開くことはできないとしても、結果的にオーソライズしないといけない。だから、これはパブリックコメントのタイミングに間に合うのかどうか。今の話では、その部分を除いて答申をしますよと言ったのだけれ

ども、結果的にはもしそれで大きな問題だったら答申とか変わってしまう可能性はあるんです。事務局に確認ですが、いつからパブリックコメントをかけるのですか。

(仁科経営企画部次長) 基本構想のパブリックコメントは、1月6日からかける予定でございます。今回ご指摘いただいているのは、実施計画の部分かと思っておりますので、やはり切離して答申していただくという方法もございます。内部的には、今回、答申いただきますと、その答申を受けて、パブリックコメントを行う前に、政策会議という市長と各部長の出る会議を行う予定でございまして、それを27日に予定しております。そこにかけてのタイミングに間に合うかどうかというところになりますので、そうするとかなり厳しいかなと、今、お話を伺っていて思いました。切り離して答申をいただく、2つに分けるといふ形になるのかなと思えます。これからもう一度細かい説明入れた、文章をつくるとなると一定時間がかかってしまうかと思うので、今、もう一度、私が先程ここは文言修正ですとか、総合戦略との兼ね合いで修正しましたと申し上げたのですが、皆さんおそろいでいらっしゃいますので、ここでまた細かく説明をさせていただくのも一つやり方としてはあるのかと思うのですが。

(出石会長) まだ45分ほどありますから、一つずつ全部説明してもらいましょうか。

よろしいですか、副会長いいですか。書面と言いましたけれども、事務局から提案いただきましたように、今もう時間少しあるので、やはりきちんと確認を取って、もし、引かかるものがあつたら、それをこう直すという前提での答申になるかもしれません。

では、すみませんが、赤字修正したところについて、画面も出しながら、ここはこう変わりましたと一個ずつ確認してください。

基本構想はもういいです。

(仁科経営企画部次長) 先ほど全部一通り、赤字のところは私のほうで説明したつもりですが、大きく組立てを変えたところの説明だけでよろしいのか、もう一度実施計画全部確認をいたしますか。1ページずつ。

(出石会長) ある意味、中身は変わらないけれども軌道修正した部分になりますか。

(「副会長が」の声あり)

(出石会長) 副会長、どうぞ。

(磯部副会長) 私の意見としては、説明を聞くのはいいですけども、その説明を聞いて、この場で結論を出すというのは、やはり私はよろしくないと思います。要するに、こちら側として、少なくとも私はその準備ができていない。今、説明を聞いてというのは結構ですけども、この会議が終わったところで承認しろとか、そういう話はやめてください。

(出石会長) そういう意見が一人でもある以上、当然ここはそのとおりだと思いますから。

ではやはり、その考えていただく時間も含めて、取りあえず全部説明してもらいましょうか。形式的なところは簡単でいいですから、あと、経済観光課長が説明する部分があれば、そこはしっかり説明してください。

(仁科経営企画部次長) 資料43、もう一度確認をしたほうがよろしいかと思しますので、最初からご説明をもう一度やらせていただきます。

番号がついていないものだけにさせていただきます。

第1節の部分です。

ここの画面共有しております第1節の……。

(出石会長) ページを言ってください。

(仁科経営企画部次長) 第1節の3ページです。

(出石会長) 例えば、頭からいくと50ページ、最初のほう、2枚目とかに出てくる50ページに、「均等割のみの者を除く」と、これは変えたのではないのですか。

(仁科経営企画部次長) これは、下の補足説明に移動させています。

(出石会長) とにかく赤をつけたのを全部説明してください。

(仁科経営企画部次長) はい、分かりました。

番号がついているものを除いて、赤字にしたものをご説明いたします。

この「均等割のみの者を除く」というのは、下の補足説明に移動させております。

(出石会長) はい。

(仁科経営企画部次長) 同様に隣の「市外転出者アンケートで」という項目、ここも下の補足説明になっております。「回答」という言葉を入れたほうがよりはっきりするので、追加をしております。

第1節になります。

第1節の3ページ目、こちらは総合戦略のひもづけの記載漏れでございましたので、それを斜体字で追加して、総合戦略のひもづける番号を追加しております。

こちらは所管による文言整理というところでは、もともとの文章と内容は変更していないと聞いております。「健康づくり・食育の推進のため未病センターなど、様々な媒体を活用した情報発信及び健康・栄養相談や健康づくり出前講座など」の普及事業という、例示を追加したりですとか、そういったものをしながら説明を書いているところです。

最後、「推進を行う」という言い方はおかしいというところで、事務局が全部「推進を図る」

と文言整理をいたしました。

こちらは先ほどご説明しましたが、予算事業名が変更となりますので修正をいたしました。

ここは基本構想の部分なので説明は終わっております。

次です。

18ページ目のK P Iは、最新の数字が出てまいりましたので、更新をさせていただきました。

最後です、19ページ目、こちら先ほどもご説明いたしましたが、前回、審議で追加したものですけれども、同じ内容が既に取り組み①の1ポツ目に入っていたということで、その中に含まれていたというところで、削除したものです。

駅前保育ステーションの取組は、今は「駅前送迎保育ステーション」とっておりますので、今の言い方に直しております。

第2節には該当する修正はありません。

次、第3節に入ります。

第3節の3ページ目。こちらの現況・課題は、上の基本構想の下から2行目のところの文言に合わせて修正をいたしました。

4ページ目。予算事業名は2つの予算事業でやっているということから、より正確を期するために追加しております。

5ページ目。ナンバー88の修正で「また」の部分を追加したときに「さらに」「あわせて」は接続詞を併せて変更したものです。

次の補足説明のところ、アダプトプログラムについて用語の説明をしておりましたので、こちらは用語解説のほうに回しているところで、外しました。また、「現状の2割増をめざす」というのは、数値目標の説明がなかったので、追加をしたものです。

9ページ目、こちら所管による文言整理ということで、「仕様の親水の整備済み箇所を」というのを、「親水性を向上させる」という言葉が先にあるので、ここで整理をしたということです。

次に、この取組、「良好な逗子海岸、海水浴場の環境の推進」に総合戦略の逗子海岸保全活用事業の推進という事業がひもづけられるというところで追加したところです。また予算事業名も海岸美化推進事業でも行っているというところで追加いたしました。

改めましてこちらの、次の12ページです。総合戦略とのひもづけが漏れていたのを追加したというところ、予算事業もこれは誤っていたので正しいものに修正しております。

16ページの具体的施策③のK P Iの現状値は、お出ししていた2022年の数値が未確定値だったので、確定値である2021年、少々古くなりますけれども、確定値のほうにしたということです。

また、次の取り組み①の部分ですけれども、焼却施設という言葉を入れて正確を期したということと、総合的などという言葉は、文言の整理の中で削除したということです。

次の19ページの部分も「生ごみ資源化施設」ではなくて、「処理施設」という言い方が正確な言い方なので、上のK P Iに合わせて修正をしました。

第4節に入ります。

4ページ目ですが、まず、総合戦略のひもづけが漏れていました。総合戦略は少々大きめの事業も入ってしまっているので、「都市計画策定事業の推進」というのを先に出させていただいて、もともとあった「コンパクト・プラス・ネットワーク型都市構造の推進」を括弧の中に入れたということです。総合戦略とのひもづけの記載漏れがあったところから事務局のほうで修正をさせていただきました。その下が79番なので。

9ページ目、避難行動要支援者については、「優先度の高い避難行動要支援者の個別避難について、市町村が主体となり、地域の実情に応じて、引き続き自主防災組織等と協力・連携し、作成を進めていく必要がある」という、より正確な現況について記載をしたということです。

あと下は文言の整理です。「でも」を「が」にしました。

22ページ目、こちらも言葉の整理です。

29ページ目は3-1の再掲になります。先ほど見ていただいた3節の11ページのところを再掲しており、それに合わせて全部修正しております。ただのコピーだと思ってください。

恐らく事業名が変わっていると言われたのが、次の30ページになるかと思うのですが、ここはもともと商工業の活性化の支援という具体的施策だったのですが、その下の取り組みの①のところは、「商工業振興事業の推進」となっていたものです。取り組みのほうが具体的施策よりもレベルが上だという、以前、会長のほうからご指摘いただいたところだったので、具体的施策を商工業振興の推進として、その中で整理した上で、もともと主な取り組みが一つしかなかったのですが、それを分解しまして取り組み②、③としているということです。取り組み①の中の3つ目のポツが消えていると思うのですが、これを分解して②、③を起こしたと、そのほうが分かりやすいということで、内容は変わっていないのですが、こういった文言の整理を行っております。ですので、取り組み①の中にある斜体字部分が消えていますが、これは取り組み②に分解をしております。

次の32ページ、具体的施策の③ですが、こちらは取り組み①をまず「小坪漁港の活用・活性化」と取り組み②を、漁港だけではない「小坪海浜地域の活性化の推進」と整理をした上で、それらを全部包含するのが具体的施策の括弧内の小坪海浜地域活性化事業という、こちらのほうが上位だということで、この整理を行った上で、具体的施策名を「小坪漁港を中心とした小坪海浜地域活性化の推進」というような文言を整理したということです。これに併せて総合戦略のひもづけも、今、33ページの取り組み②に入っていた総合戦略は、具体的施策の直下の総合戦略欄のほうに移動させたりとかというようなところです。あと、予算事業名はもともと関係する予算事業名を追加しているところです。

次に、36ページ目ですけれども、こちらも総合戦略とのひもづけの見直しを行っています。これは本当に入り繰りで、よりどちらの事業のほうが正確かという形で、何かを削除したりとかしたわけではないかと思うのですが、入替えを行ったということです。どうしてもももとの事業が、観光客の誘致事業であるとか、逗子市観光協会の助成事業の中でやっている事業を、どういうふうな組合せで表記したほうがよりまとまりとして正確かという観点から入替えを行ったというふうに聞いております。

取り組み④については、こちらは同じ節の中ですが、31ページのを再掲しています。ふるさと納税のページにはまた、この観光振興事業の中でもふるさと納税の取り組みを行っているということで、再掲をしたという整理を行っております。

5節に入ります。

5節の中で修正したものは、3ページのところですが、ここは「不可能」という言い方はきついということで、「困難」という文言の整理です。

7ページ目ですけれども、意識の高揚を図る「ための」という言葉を除いたのは、単に不要な言葉だったので「図る人権啓発」というふうにつなげたというものです。

説明は以上でとなります。

(出石会長) 全部説明していただきました。

字句修正というのは、例えば一番分かりやすいのは、最後の説明なんかは極論です。「ための」を取ったりですとか、極論、こんなのは別にいつ直していただいたって構わない話です。構わないというか、それは全体的な、それこそ製本する際、あるいはホームページに載せる際に直したって構わないと思うのです。だから、そこに対して目くじら立てているわけでは毛頭なくて、ただ、一方で、入れ替えただけですとかと言いながら、ページで言うと32ページ、33ページとか、36ページ以下は、例えばそもそもの具体的施策名を変えているわけでしょう。

観光事業から観光振興事業に変えたのでしょうか。これは違うのですか。

(仁科経営企画部次長)　そうです。

(出石会長)　ですよね。それを変えていたりですとか、このあたりみんなそうですよね。見方によっては、私が意見を言ったから上位、下位、それだったらそれは審議会で出た意見としての修正にすればよかったのではないですか。それを事務局修正にしてしまうから、何もかも変えてしまうようになりますよね。30ページ、商工業振興の推進の関係も説明を言われれば、確かにそういう意見も言ったし、的を射ている修正だと思うのですが、それを事務的に直されたと言ってしまうと、審議会を踏まえなくてこんなに大きな変更をしてしまうのかということになってしまうのです。だから、今聞いているうちの多分大部分は、ある意味本当に微修正だと思うんですが、やはり私も今幾つかページをめくってみましたけれども、何か所かはやはり分かるけれども、それだったら、こういう意見があるのではないのなんてことも出てきそうなのが、後半のほうです。

どうでしょうか、取りあえず説明を受けましたけれども、ほかで意見等がありましたら。

はい、どうぞ。

(三原委員)　前から申し上げていますが、僕がここで言いたいのは、小坪漁港を中心とした小坪海浜地域活性化の推進というこの文言が、すごく大きな風呂敷を掲げているのだけれども、実際はその次の観光協会への助成事業と同じように、漁業協同組合への助成事業、実施計画からいくともうそれに尽きている。そうすると海浜地域の活性化となると、我々住民自治協議会も海浜地域、あの辺、漁港一体の海浜地域の活性化につながる、保育園どうするの、津波が来たときに、消防署だとか、保育園だとか、それから学童だとか、こういうところがあそこに集中しているけれども、こういういったことも将来的にどうしていくのということまで考えているのかと思うのだけれども。実際、実施計画を見ると、もう完全に漁業協同組合の助成事業なのだ。養殖のための稚貝を放流するだとか、ワカメの種を何とかとか、それから、漁港を改修するとか。それだったら海浜地域の活性化なんていう大きな命題を上げないで、漁業協同組合助成事業にしたほうがいいのではないかというのが私の意見です。

小坪海浜地域活性化というので、経済観光課長ともいろいろお話しして、将来的にこうしたほうがいよねみたいな話をしているけれども、実施計画がそうであれば、ここは変えたほうがいいのではないかなというのが私の意見です。変えられるのであれば。次の観光事業のほうは変えていますよね。

(出石会長)　この審議会の中である程度その議論もしたような記憶もあるのですがけれども。

これがしっかりと、さっきの中での議論になっていてよかったです。だからやはり食い違いのだけでも、事務的に直せるような話ではないような気がするのです。

ここはもともと活性化の推進と言っているのです、もともとずっとやられていると言われていた意見があるので、そこはそれとして、分かりました。

ほかの意見ありましたら。

佐藤委員、どうぞ。

(佐藤成人委員) 大変恐縮ですが、教えてください。

過去にも議論したということであれば、私も失念しているだけなので教えていただきたいのですが、資料で言いますと、43の、4節のPDFの番号で32になるのです。4節の2ページ目のめざすべきまちの姿というのが一番上にあります。めざすべきまちの姿で、中期実施計画の目標というのが書いてありましたが、目標のほうは、「快適な暮らしを支えるまちをめざす市の取り組みに満足している人の割合が10ポイント増加している」と書いてあって、これは、先ほどの説明だと、資料38の番号に対応しますということだったので、先ほどご説明いただいたときになかったのですけれども、これ、未実施とアップデートされるのですか。これは何か記憶にないのですけれども、これというのは、今、検索できる限り、以前いただいた資料を見ても、ブランクのまま今までできていて、今日初めて未実施と変わったと思っているのですが、その認識で合っていますでしょうか。またこの項目について、この評価KPIでどうなんだみたいな議論というのはあったかどうかというのは記憶にございますでしょうか。

(出石会長) ところで、ちなみに何ページですか。未実施というのは幾つかあるので。

(佐藤成人委員) PDFのページ数で言うと32ですけれども。

(仁科経営企画部次長) これは、第1節から5節まで全部なのです。

今、佐藤委員は4節でおっしゃったのですけれども、実際的には、5節まで全部一緒の目標値になっています。資料43でいきますと、第1節の2ページ目も同じですし、第2節の2ページ目も、全部同じ形です。

(佐藤成人委員) 本当ですね。失礼しました。

(仁科経営企画部次長) ですので、4節に限った内容ではございません。

こちらは、もともとは単なる空欄、何も書いていなかったのです。前回の資料、審議会の第6回までは何も書いていない状態でしたので、今回、新たに「未実施」という言葉を添えたのがこの修正箇所になっております。

その後目標について補足説明も必要だというご意見をいただきましたので、それと併せて説

明、単なる空欄だったところに未実施という言葉を入れたのが、今回の修正です。

なぜ未実施なのというところですが、ここは各節のいわゆる数値目標に該当する部分です。各節の施策を代表するような、代表的な数値目標を設定することが大変難しく、結局どのような形にしたかという、意識調査によりまして、各節のタイトル、例えば第1節ですと、「共に生き、心豊かに暮らせるふれあいのまち」というのが、基本構想のめざすべきまちの姿、柱ですので、その柱を目指す市の取組に満足している人の割合というのを設置したところですが、現在、まだ意識調査をやっておりません。ですので、この数値の目標を掲げましたら、来年度調査するのが、初回の数値になりますので、そこを基準に10ポイント上げたいというのが、かなり大きいですが、目標にしているというところでは、

これは5節、5本の柱に全て対応して、全く同じつくりにしております。意識調査に関する考え方は、以前からも佐藤委員からご指摘いただいているのですが、やはりこれを超える、意識調査以外の方法で、数値目標を掲げることが難しかったというところから、事務局のほうでこのような形で設置をいたしました。

以上です。

(佐藤成人委員) ありがとうございます。

これは、議論していたら、終わりにするのですが、この目標の取組に満足している人の割合が何ポイント、各節に今後目標の質問のイメージが書いてあるのですが、この質問というのは、極めて抽象的でどうやって取るのだろうかというか、今日改めてというか、ひょっとしてかもしれないけれども、分からなくて。例えば、その4節のところと言うと、快適なまちづくりに関して満足している人が10ポイント。では、それを一体どうつくるのかというところを考えると極めて抽象的です。意識調査、今までも質問項目で言うと、もう少し具体的な、例えば快適ですかとか、子育てしやすいですかみたいな、そういう習慣になるのですが、ある程度回答しやすいものを聞いていますけれども、この各節のこの大きな目標のポイントの調査目標というのが、極めて現状何を聞くかというのが分からないというのがあるのですが、それをどう聞いたらどう答えが出るのかが全く分からないでいます。

今、既に議論しましたよということであれば申し訳ないですが、終わらせるのですが、しかも現状だと、こういうことを聞くということが書いてあるもの、具体的に何を聞くかという、こういうことを質問で聞きますみたいなことを書いてあれば、ああ、なるほどそういう考え方で聞くというのは分かりますけれども、何か大きな目標をそのまま聞きます、以上と書いてある。一体何を聞くのかが分からない。そうすると聞き方によっては幾らでもポイ

ントをいじれるという懸念というのを一審議委員としては、やらないとは思いますが、これというのは本当に正しい説明が出てくるのか、分らないです。

だから、すごくテクニカルなことを言うと、来年始めてから、何か年かで10ポイント上げますとかですけれども、そもそもこれ来年95ポイント返ってきたら、10ポイント上げられないのではないですか。

(仁科経営企画部次長) そうですね。

(佐藤成人委員) という、これはテクニカルなもの。まあ実際はないだろう、50ぐらいだとか、40ぐらいとかであるのだろうという話なのですけれども。ここというのは何かテクニカルにもきちんとKPIとして市の努力とか、取組を評価するということに、一番大きい項目になるのですけれども、それが何かすごい抽象的な見方をしているのです。既に議論ありましたか。あったら本当に申し訳ない。今までそういう記憶がなくて、今日、ふと気づいたというふうに、私は記憶しているのですが、すみません、いかがでしょうか。

もし、今までそれがなかったねということであると、各節のこの聞き方というのが一体何を聞くのかが分からないというのは、さっき言ったような懸念というところで、大丈夫かしらと、今さら言ってもというところだと申し訳ないですけれどもという点が今さらで本当に申し訳ないけれどもありました。

(仁科経営企画部次長) はい、では事務局から。

今までこの目標の、こういう形で設定しますというご説明はしたのですが、ご意見はございませんでした。どういう形で意識調査を行うのかというところですが、こちらにつきましては、説明をしないと基本的にはこの抽象的な内容だけでは回答が難しいということはおっしゃるとおりだと思っております。

アンケートを取る際に、例えば共育であれば、共育と言われても何のことか分からないので、こういう事業が該当しますというのを例示するのかなというのが漠然としたイメージで持っておりましたが、例えば、そこに具体的な数値まで書いたほうがいいのではないかと、そういう意見もあろうかと思えます。実際には、例えば5本の柱を、同じような物差しで測る指標があればよいのですが、この意識調査以外には難しいだろうというところで、この目標設定をさせていただいて、具体の意識調査の取り方については、来年度、ご意見をいただいて設定できたらというように考えています。ただ例示というようにしか、今の段階では事務局では考えておりません。

(出石会長) ここは大事なので、手戻りになるかもしれないのですが、佐藤委員にもご意見

いただきたいのですが。これは先ほどの答申に加えたらどうですか。例えば、答申するのとは別で、なお、中期実施計画における目標数値について、逗子のまちづくりに関する市民意識調査の結果に基づくものについては、例示をするなど客観的なアンケート調査となるように、努められたい、こんなような文章を入れたらと思うのですけれども。いかがですか。

それで、審議会としては、こちらの立場としてはそれを要請するということです。市はそれを踏まえて、今、仁科さんからの言葉をそのまま受け取ったのですよね。それをこちらが出しますから、それを、答申に書けば教訓になるので。また同じことで、各セクションがきちんとやってくれないと困るわけですから、そのような形に、今の意見を踏まえて追加させていただくというので、手戻りで申し訳ないですが、よろしいでしょうか。

(佐藤成人委員) はい、ありがとうございます。

(出石会長) では、そのようにさせていただきます。

ほか、先ほどの修正、補足説明についていかがでしょうか。

副会長、どうですか。かなりの部分は今の説明で、まあまあしようがないかなというか、むしろ細かい修正はよしとして。ちなみに私が引っかかったというか、ここはと思ったのが1か所だけありまして4節の9ページになりますか、避難行動要支援者への支援の確立。これは、結局書き直しているのですよね。だから、これがどうしても引っかかってしまう。何で最初にきちんと書いていなかったのですか。

(福井経営企画部長) 先ほど文言の整理というお話を少し差し上げていますが、法改正があった部分です。なかなか避難行動要支援者の個別避難計画というものの作成が進んでこないということがありまして、少し市町村の努力義務というか、消してあるところは自主防災組織等が実施するという書き方もしていますけれども、法改正で市が主体となって計画をつくってやっていこうということになっていますので、その法改正に合わせていた言葉を少し直させていただいたというのが実情というところです。すみません。

(出石会長) だから、そういう説明をいただければ、あるいは、先にこれももう少し加えて説明してもらえば、事業名が変わったってあれでしょう、来年度予算要求で変わったのでしょうか。

(福井経営企画部長) はい。

(出石会長) であれば、そういうふうに言ってもらえば、それはもう必然的に変わるので、別に我々は納得できるのです。我々というか、私は納得できるのですけれども、分かりました。であれば、これはもう変えるのが必然だという説明だと思うのですけれども。そうしますと、

あと全体的に、やはり先ほど磯部副会長はこの場では準備ができていないから結論は出せないという話でしたが、どうでしょうか。

(星山委員) すみません、1個だけ聞いていいですか。

(出石会長) 星山委員、どうぞ。

(星山委員) すみません、多分私、このときあまり出ていなくて聞き落としだと思いますけれども、第1節の32ページ、今日ご説明があった第3章「わたしたちはこんなまちにしていく」を実現するための取り組み③の様々な保育ニーズへの対応というところで、保育に係るニーズ調査のところの「手法の一つとして、駅前送迎保育ステーション」の「送迎」のところ。保育課というのは教育委員会かと思うのですけれども、あまりここに関して議論を聞いたことはないのですけれども、どんなものが教えていただきたい。それで送迎というので駅前保育ステーションというのは大分イメージが違うと思うのですけれども、何か知っていられちゃったら教えていただきたい。

(出石会長) 説明できますか。

(仁科経営企画部次長) 事業の中身ですか。これは検討するになっていますので、具体はこれからの検討になろうかと思うのですが、もともと、例えば流山市であるとか、そういったところで駅前保育ステーションというのが、よく事例として紹介されているところかと思うのですが、具体的に逗子市でどういうふうな形のニーズがあるとか、どういう形になれば実施できるかというのを子育て支援課のほうで検討をしていくということなんです。

(「保育課」の声あり)

(仁科経営企画部次長) ああ、保育課だ。失礼しました、保育課のほうで検討していくということですので、まだ詳細は固まってないところだと思います。

(星山委員) そうなのですね。手法の一つとしてと、こういうふうに書いてあると、そちらの方向に意味づけられていくなと思って。この計画を聞いたことがないし、本当にみんなこれを望んでいるのかなと思ったので、ちょっと怖いなと思って伺っただけです。保育のニーズはたくさんあるのですけれども、多分、駅前の送迎よりも支援の必要な子に対しての様々な丁寧な保育とか物すごいニーズがあると思いますけれども、何かこういうふうに誘導されるとすごい直結してこちらになるのではないかなと。今日突然気になったというか、送迎まで出てくるともう何か流山市に行くのか逗子はという感じがしたので、質問だけです。別に例示だということは分かりました。

(仁科経営企画部次長) もう少し付け加えますと、確かに保育のニーズはたくさんあるのか

と思うのですが、もともとの送迎ステーションというのは、例えば地域によって保育の空きがあるとか、そういう偏在をなくすためというのが流山市の発想の発端だったのですが、逗子市で今検討している方向は、一つの園だけでなく、きょうだいに分かれて2園、3園に分かれているような、そういった送迎の負担の多い保護者への支援という方向での検討で進めているところです。

（星山委員） 分かりました。分かるけれども、手法の一つとは書いてあるけれども、すごく具体的に意味づけられていて、あまり検討していないから、少し気になっただけです。理解はできました。

（出石会長） 磯部副会長、どうぞ。

（磯部副会長） 中期実施計画案に関しては、答申に向けてまだ作業があるというふうに感じました。このスケジュール的に言うと、中期実施計画案の答申は、いつまでになっているのか、まず教えていただきたい。

（出石会長） 先ほどの話だと、基本構想の改定の答申は、今日出してほしいということです。そうすると2つに分ける方法があって、先ほどの答申案の話がありましたが、要するに諮問事項のうち、基本構想の改定案について別紙のとおり答申する。これは多分、それだけで終わって、それを出すと。そうするとあとは今日の追加説明があった部分を含めて、委員の皆さんから、これも書面になるのかな、審議会開けるか分かりませんが、もう一回やり取りをした上で、今度は諮問事項のうち、中期実施計画について最終的にまとまったもので別紙のとおり答申するとやって、なお書きとして、先ほどやりました市民意識調査の部分をここに加えると言って、その時期はいつ頃でしょうか。いつ頃までだったら間に合うのでしょうか。中期実施計画の答申。

（仁科経営企画部次長） 現段階ですと、もともと市議会の全員協議会でこの部分について意見交換してからパブリックコメントを行うというそういう手続を行う予定でございましたが、まだ市議会のほうから日程の提示がございませんので、現段階ですとなるべく早くというような、準備としましてはそういうような形で考えていたところです。

ですが、現段階でまだ提示できるような状態でないということだと、1月の頭ぐらいであれば間に合うのではないかとこのように考えております。

（出石会長） 磯部さん、そういうことだそうですが。

1月の頭というか、そうすると、すみません、私無頓着で。これから今日22日ですから、再度この修正点についての意見をもらって、それを事務局も考えてほしいんですが、それを例

えば委員全員に送って、書面審議か何かするか。それで1月10日ぐらいに確定させて、答申書の文章、あれで、先ほどの形でいいと思うので、中身のほうです。そのぐらいでしょうか。書面審議しかないですかね。

磯部委員。

(磯部副会長) でしたら、まずは委員からの質問の受付の締切日を決めていただいて、さらにそれに対して回答を含めた文書というものを委員全員に配っていただいて、そこでいいです、いやまだ駄目ですという、そういう手続がありますね。

(出石会長) 要するに書面審議、メール審議的になると、実はすごく時間がかかるのです。意見が出ると行ったり来たりになる。本当はもう一回やるしかないかなという気もするけれども。やるならそのほうが一発ですから、一回一回審議せずに済むから。

磯部さん、どうぞ。

(磯部副会長) どうしてもスケジュールがあるということは分かりますので、ただし、委員として最善を尽くしたということは必要だと思いますので、少なくともその質問に関しては出して、継続審議みたいな形で答申書をまとめて出すと、そういったのが最終的な時間を優先した場合には、形になるかなと思うけれども、どうでしょうか。

(出石会長) どうでしょうか。

(福井経営企画部長) 先ほど1月の初旬というお話を差し上げましたが、こちらの落ち度もありますので、少し時間を、もう少し長く取れるようなやり方を少し考えさせていただいた中で、本日、締切日をつくっていただくにして、その後のスケジュールについては、ご回答させていただく中で、委員の皆様にはお答えをさせていただければというふうには思います。

(磯部副会長) 企画課の方ほうからスケジュールに関してはご提案いただきたいと思います。

(出石会長) 要はこれから書面の流れで、書面で意見を出し、それを取りまとめたもので市の見解が示されて、活用させていくということ。なるべく迅速に我々もするしかないのですが、そんなに、そうは言っても先ほどの細かな微修正はともかく、そう論点は多いとは思いませんので、速やかな対応をするということでもよろしいでしょうか。

結論としては、そこの部分の中身を最終的にもしかすると、修正を願うことも出てくる前提で答申案は先ほど言った答申、別紙のとおり答申するということと、市民意識調査のところも提言をつける。鑑文は一緒、中身を調整する、それでよろしいでしょうか。

磯部委員、どうぞ。

(磯部副会長) 申し添えると、私は変更点に関して大きな懸念を持っているわけではないで

すけれども、やはり審議会として、きちんと審議をしたということは残したいと思います。

(出石会長) では、ほかに異論がなければ、その形で今後迅速に進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

中畠委員。

(中畠委員) 確認ですけれども、基本構想については、本日答申をするということであったようですか。分かりました。それで、もう一点確認ですけれども、前はパブリックコメントの前については、中間答申みたいな形を取っていたようすけれども、パブリックコメントを受けてまた総計審にかける必要というのは、特にはないかもしれないのですけれども、そのパブリックコメントの結果などをまたフィードバックしていただくというような形の流れはあるというようなスケジュールでよろしかったでしょうか。

(仁科経営企画部次長) フィードバックのほうは想定しておりますので、また、ご意見の状況につきまして、またその反映する内容につきましては、皆様のほうにご意見をお伺いすることもあろうかと思っておりますけれども、フィードバックのほうはいたします。

(出石会長) ちょっと私も確認ですけれども、フィードバックして、フィードバックするのはいいのですけれども、それでまた意見聞いてまた直すとかするのはまずいのではないですか。我々は答申で終わりでしょう。我々審議会は答申して、答申したものを市がどう料理するかで、それをパブリックコメントにかけて市長が決めるのではないですか。だから、それに対して、どんな意見があってどう回答したかを我々に示してもらうのは大変ありがたいことだけれども、それでまた意見を求めたら、パブリックコメントというのはそういうものではないから。市長が最終判断、市が最終判断するために求めるものだから。極論ですが、この審議会に出したものが変わったって構わないです。最終的に市長が決めるのだから。だからこそ、磯部副会長の言うとおり、しっかり我々は審議した結果をちゃんと示したいという、ですよ。

中畠委員、よろしいですか、それについて。

(中畠委員) ありがとうございます。

基本構想については、前回お出しした序文や総論に入れていただくような形の変更が出されて、市にとってもいい形になったかなと思いますので、これで答申を出していただければと思います。

以上でございます。

(出石会長) それでは今のような形で今後皆さん、お手数をかけますが、よろしく願います。市のほうも年末年始になって申し訳ないですが、対応していただければというふう

に思います。

それでは、今のが3でしたから、4の閉会になりますが。

(福井経営企画部長) すみません、締切日。

(出石会長) 想定してもらえますか。

(仁科経営企画部次長) ご意見いただく期間ですか。もう少し長くとおっしゃったので、年明けのほうがよろしいのか、年内でいいのか、どちらがよろしいかと思っているのですけれども。

(出石会長) 意見はもう年内にしてもらっていいのではないですか。我々が出すのは年内。

(仁科経営企画部次長) それでは、ご審議をいただきまして、ありがとうございました。

では、本日、事務局のほうから修正した案件につきましてのご意見につきましては、ご意見は28日の5時までにはいただければと思います。よろしく願いいたします。

今回、これまで7回もにわたりご審議いただいた中で、最後にこのような形になってしまったこと、大変申し訳ございませんでした。今までご審議いただきまして本当にありがとうございます。

先ほど基本構想の部分の答申はいただけるということでしたので、その決裁取れたところで、皆様のほうに共有をさせていただければと思います。

また、本日の会議録を作成しまして、皆様のほうにも確認をいただきたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上です。

(出石会長) 最後に確認です。もう一点確認ですが、その実施計画のほうの答申については、先ほど大体冒頭私も申しましたとおりで皆さんご同意いただいたと思うのですが、一応、最終的には、会長、副会長と事務局にご一任いただくということでよろしいでしょうか。

(「結構です」の声あり)

(出石会長) ありがとうございました。

すみません、私も会長の立場でいながら、いろいろとかなり厳しく申しまして、本当に皆さんに不快な思いをさせたかもしれませんが、その点はおわび申し上げます。

それでは、本日の会議は終了とさせていただきます。

皆様、お疲れさまでした。